

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

キャンパス白倉を核とした白倉再生計画 ～学べる学校・遊べる学校・自由な学校への再生～

2 地域再生計画の作成主体の名称

十日町市

3 地域再生計画の区域

十日町市の区域の一部（川西地域白倉地区）

4 地域再生計画の目標

4-1 地区の現状

（1）白倉地区の地勢（地形、歴史等）

白倉地区は、新潟県十日町市最北部に位置する山間地であり、5.6 km²のエリアに2つの集落、大白倉集落と小白倉集落で構成されている。

当該地区は、毎年の平均積雪深が3 mを超える全国でも有数の豪雪地帯であり、古くから農業を中心とした里山文化が育まれ、奇祭と呼ばれる「大白倉バイトウ」や「小白倉もみじ引き」などの伝統行事が脈々と継承されている。

また、各農家で収穫された野菜を持ち寄り、品評会や即売会を行う「白倉自慢会」の開催や、英国建築協会附属建築学校、通称ロンドンAAスクールを受け入れるなど積極的な交流事業を展開している。

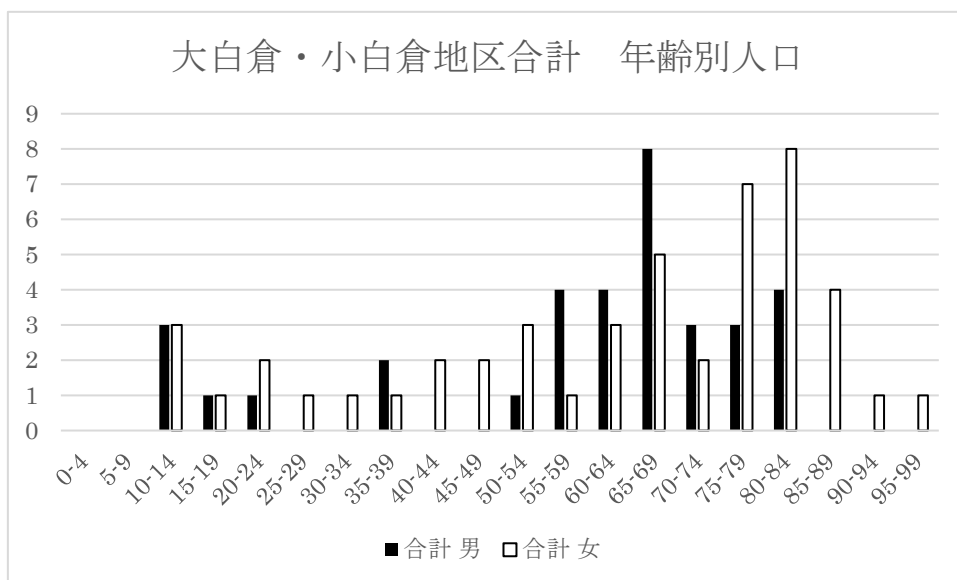
さらに、小白倉集落は、古くからの里山の景観を保持しており、平成8年に「美しい日本のむら景観コンテスト」で最高賞を受賞している。

（2）白倉地区の人口

白倉地区の人口は、平成28年3月末現在で82人、世帯数は35世帯（住民基本台帳）となっており、平成19年3月末と比較すると人口は41人減少している。

年齢構成では、0歳から19歳が8人、9.7%、20歳から44歳は、10人、12.2%、働き盛りである45歳から64歳が18人、22.0%、65歳以上の高齢者は46人、56.1%となっており、典型的な高齢化地区となっている。

また、特質すべき点は、大白倉、小白倉集落とも9歳以下の子供がいないことである。



(3) 白倉地区の産業

白倉地区の水田耕作面積は、33.6ha（十日町市水田台帳）、そのほとんどが急傾斜地となっている。農家戸数は、34戸、そのうち1戸は、稲作となめこ栽培の複合経営を行っており、稲作農業を中心とした1次産業が重要な基幹産業となっている。また、転作田で栽培される青刈り稲によるしめ縄作りが行われている。

当該地区は、かつては錦鯉の養殖が盛んに行われてきたが、今では2戸だけとなっている。

地区唯一の生活必需品販売所であったAコープが平成21年に閉店となり、白倉地区内で二次産業や三次産業を営んでいる者はいない。

(4) 白倉地区とキャンパス白倉

白倉地区は、平成6年に地区コミュニティの中心であった白倉小学校が閉校となり、地区コミュニティの醸成や世代間交流等が深刻な問題となっていた。

白倉小学校が閉校となり、地域力が増々低下している中で、平成8年にロンドンAAスクールが白倉小学校で合宿研修を行うこととなり、白倉地区とAAスクールとの間で国際交流が始まった。

これを機に、平成11年に、トイレや浴室等の小規模な整備を行い、名称をキャンパス白倉と名付けた。

施設の整備は小規模であったが、AAスクールとの国際交流のみならず、豊島区の演劇学校の合宿、埼玉県の子ども自然体験合宿などが行われるようになった。

キャンパス白倉は、白倉地区にとって国際交流、都市との交流を繋ぐ極めて重要な施設となっている。

4-2 地区の課題

(1) 急速な少子、過疎、高齢化の進行と担い手不足

白倉地区は、AAスクールとの国際交流、合宿研修者との都市交流、白倉自慢会によるイベント交流、さらには古くからの伝統行事である、もみじ引きやバイトウの伝承など、積極的に地区活性化に取り組んでいる。

しかし、山間地であること、豪雪地帯であること等も要因となり、急速に少子、過疎、高齢化が進行している。

白倉地区全体で、平成18年から出生が無く、15歳から49歳までの女性の人口が10人、全人口の12.2%しか占めていない。さらに、高齢化率は56.1%に及んでいる。

白倉地区では、集落の共同作業として行われている農道の維持管理（道普請）や水路の維持管理（堰ざらい）、集会所や神社等の共同施設の維持管理、さらにはこれまで引き継がれてきた伝統行事さえも継続できない集落も出始めている。

白倉地区は、地区主体による持続可能なまちづくりを続けることが困難な状況となっている。

(2) キャンパス白倉の機能拡大

キャンパス白倉は、昭和46年に白倉小学校として建設され、教室棟は鉄筋コンクリート3階建720㎡、11の教室等で構成されている。体育館は木造平屋建435㎡である。

平成27年度の利用実績は、AAスクールが30人、演劇学校の合宿14人、子ども自然体験合宿112人、市内の中学生の親子キャンプ59人、および白倉自慢会での利用が200人、合計415人であり白倉地区の人口の約5倍となっている。

しかし、旅館業法の簡易宿泊所の許可を受けているものの、宿泊は鍵のかからない教室の床や古畳の上に「ごこ寝」状態であり、冷暖房設備がないため、夏と冬は過酷な環境での宿泊を余儀なくされている。

このように、キャンパス白倉は、交流・宿泊機能に乏しく、ほとんどが空

き教室の状態となっており、多目的な施設利用としているため、これといった特色を打ち出せない施設となっている。

また、厨房はシンクが2か所であるため、臨時営業許可しか取得できず、白倉地区からは通年営業の許可を取得できる厨房改修の要望が出されているとともに、カプラワークショップや雪中フォトスクールなど様々な活動を実施している若手建築家集団からは、キャンパス白倉の利活用を向上させるために、施設環境の充実が求められている。

さらに、施設の維持管理は、白倉地区が行っているが、今後様々な事業を行っていく上で運営主体となる組織が無いことが大きな課題となっている。

4-3 目 標

本地域再生計画では、キャンパス白倉の機能の拡大と運営組織となるオープンスクールを立ち上げることにより、都市の建築系の企業や大学などの本格的な研修・教育・宿泊施設を目指す。

また、学校という環境を活用した企画づくりを行い、若者によるイベントの開催や他の合宿研修の誘致拡大を図る。

建築系の企業や大学の研修・宿泊施設としての活用、オープンスクールの設置、イベント開催、他の合宿研修の誘致などを進めることにより、都市の若者との交流を拡大し、都市の若者が白倉地区の文化・風習に触れることにより移住定住の促進を図る。

これらの取組により、白倉地区の最大の課題である担い手不足を少しでも解消し、持続可能なまちづくりを推進していくことを目標とする。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
移住定住者数	0	0	0	0
キャンパス白倉の利用者数	415	35	40	45

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
移住定住者数	0	1	1
キャンパス白倉の利用者数	50	60	230

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

少子、過疎、高齢化が急速に進み、様々な分野において担い手不足が深刻化している白倉地区においてキャンパス白倉は、同地区と国際交流、都市との交流を繋ぐ大切な施設となっているが、宿泊・交流機能に乏しく利活用が進んでいない。

このため、半廃校状態であり特色を持たないキャンパス白倉を、都市の建築系の企業や大学などの本格的な研修・教育・宿泊施設となる「学べる学校・遊べる学校・自由な学校」へと再生する。キャンパス白倉のソフト・ハード両面における機能を充実・拡大することにより、交流人口拡大と移住定住者を確保し、持続可能な白倉地区を創生するため、次の事業を行う。

- (1) 旧白倉小学校のイメージを保ちながら、快適な宿泊環境と特色あるキャンパス白倉として再生するための施設改修を行う。
- (2) 先駆的装置を導入することにより、建築系の企業や大学に対する質の高い研修・教育環境を提供する。
- (3) 建築やデザインを媒体とした、研修・交流・研究活動を運営するオープンスクールを組織する。
- (4) AAスクールや大手建設会社などによるシンポジウムを開催し、建築系の企業や大学の研修宿泊施設として広くPRする。
- (5) 白倉地区に若者を呼び寄せるため、若者の仲間づくりを目的とした企画・実践を行う。
- (6) 白倉創生協議会を設置して、関係者の合意形成を図る。

これらの取組により、キャンパス白倉を「学べる学校・遊べる学校・自由な学校」に再生し、交流人口拡大と白倉地区への移住定住者を確保する。

5-2 第5章の特別な措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

①事業主体：十日町市

②事業の名称：キャンパス白倉創生事業

③事業の内容

キャンパス白倉の主なる利用者は、AAスクールや子ども自然体験などに限られている。その主な要因は、宿泊機能が極めて低いこと、及び多目的な利用施設としているため、これといった特色を打ち出せないことにある。

これらの課題を解決するため、以下の事業を実施する。

ア) キャンパス白倉再生整備事業（快適な宿泊機能の整備）

当該整備事業は、旧白倉小学校の雰囲気を保ちながら、宿泊室の整備や冷暖房の整備などを行うことにより、安価な宿泊料の中で快適な宿泊環境を整備することを目的として実施する。

当該事業により、キャンパス白倉の1階及び体育館は、交流やイベントなど自由に使える場、2階は宿泊の場、3階は先駆的装置等を備えた研修の場として再生する。

イ) 先駆的装置の導入（特色あるキャンパス白倉）

都市や外国からメールで送られてきた設計図に基づき、設計図どおりに自由自在に製品を製作することが可能な3Dレーザーカッターを整備する。

この装置を導入することにより、白倉地区と都市や外国との距離と時間を考えることなく作品制作や研修、教育といった「学べる学校」を提供することが可能となる。また、地元若手建築事業者の研修としても有効活用する。

ウ) 白倉オープンスクールの設置（特色あるキャンパス白倉）

建築やデザイン等を媒体とした、研修・交流・研究活動を運営する「白倉オープンスクール」を平成30年度に開校する。

さらに、若手建築事業者が、オープンスクールに参加することにより、新たな情報を入手することが可能となる。

エ) キャンパス白倉利活用シンポジウムの開催（特色あるキャンパス白倉）

AAスクールが、オープンスクールへの招致を計画している都市の大手建設会社、大学、若手建築家集団及び白倉地区住民によるシンポジウムを開催して、オープンスクール開校及び建築系の企業や大学等の研修・教育・宿泊施設として、「学べる学校」の利用拡大を広くPRする。

オ) 廃校ぐらし企画書策定と実践（特色あるキャンパス白倉）

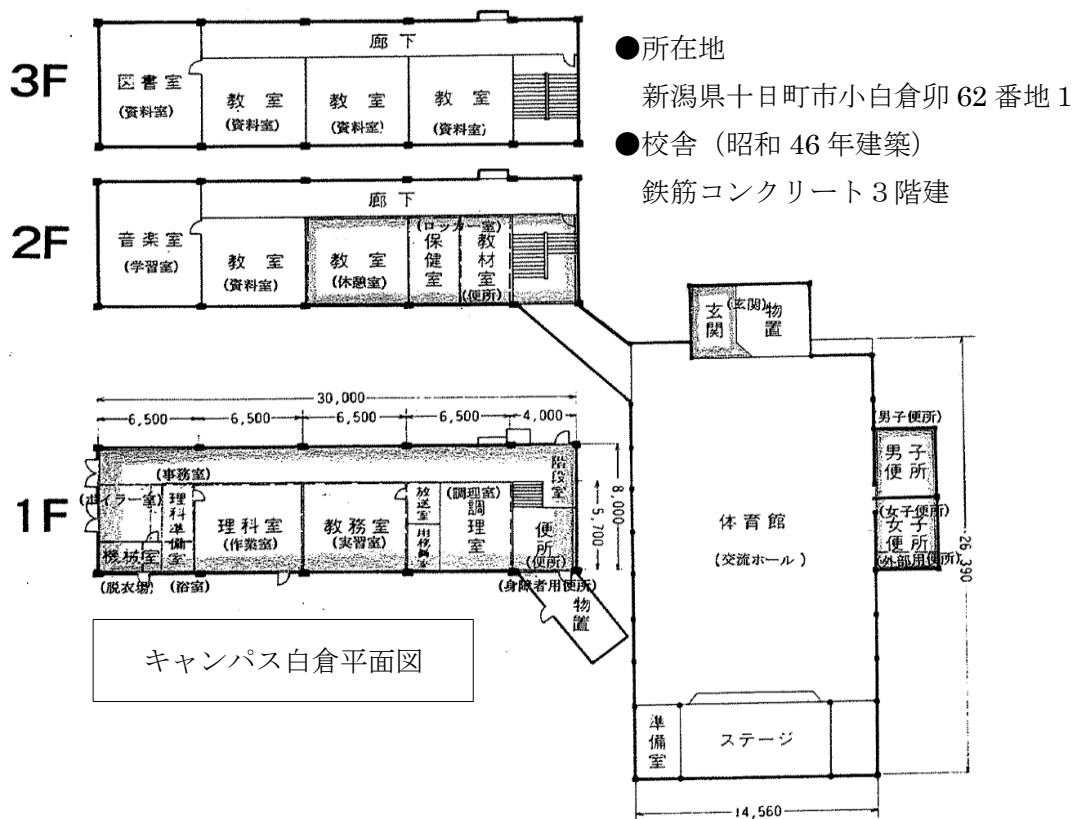
地域活性化に取り組んでいる若者、Iターン留学生などで構成する「飛び込め・廃校ぐらし実行委員会」を組織する。当該実行委員会は、学校という環

境を生かした若者の仲間づくりを目的とした、企画書の策定と実践をとおした若者が集う、「遊べる学校」・「自由な学校」をPRする。

カ) 白倉創生会議の設立

白倉地区住民、関係団体及び行政で組織する白倉創生会議を組織する。

当該組織は、キャンパス白倉の総合的な利活用と交流及び移住定住促進について意見交換を行い、地区住民と関係団体の合意形成を図ることを目的とする。



④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

少子過疎高齢化に悩む小さな山間集落が、国際色豊かで人口の 35%を超える多くの外国人と 20 年間に渡り国際交流を行っていることは、全国的にみても極めて稀な事例である。白倉地区では、「白倉国際交流委員会」を組織し、行政からの支援を求めることなく自主的に交流活動を続けてきている。

当該事業を実施することにより、企業や大学の研修・宿泊の運営は、「白倉オープンスクール」が担い、若者の仲間づくりのための企画と実践は、今年度白倉地区に移り住んできた I ターン留学生を中心とした「飛び込め・廃校ぐらし実行委員会」が担う予定となっている。

キャンパス白倉の維持管理経費は、当面行政の負担となるが、宿泊や交流による利用者拡大により負担を最小限に止める。

【官民協働】

白倉地区住民、里山プロジェクトなどの関係団体、I ターン留学生及び行政で組織する「白倉創生協議会」を組織し、キャンパス白倉における事業のみならず、白倉地区の持続可能な地域づくりについて協議を行う。

行政は、当該協議会の事務局となり協議会の運営を支援する。

【政策間連携】

当該事業を実施することにより、中山間地域対策と建築事業者の担い手育成対策が同時進行する相乗効果が得られる。

⑤重要業績指標（KPI）及び目標年月

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
移住定住者数	0	0	0	0
キャンパス白倉の利用者数	415	35	40	45

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
移住定住者数	0	1	1
キャンパス白倉の利用者数	50	60	230

⑥評価の方法、時期及び体制

毎年度末に、白倉創生協議会においてKPIに基づく事業効果の評価を行い、評価結果は市のホームページにより掲載して公表する。

⑦交付対事業に要する経費

①第5条第4項第1号イに関する事業 【A3007】

総事業費：33,295 千円

⑧事業対象期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日（5 カ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 中山間地域人材受入・活用体制づくり支援事業

事業概要：

大白倉集落活性化協議会では、集落住民の外部人材受入に向けた理解促進と受入の経験値の向上を目的として、受入体制づくりに向けた検討会や受入意識の向上を目的とした研修会を実施する。事業終了後は、継続して農業を中心とした外部人材の受入を図っていく。

事業実施主体：大白倉集落活性化協議会並びに新潟県、十日町市

事業期間：平成 28 年 11 月 20 日から平成 29 年 3 月 31 日

(2) 白倉オープンスクールの設置

事業概要：

キャンパス白倉において建築やデザイン等を媒体とした、研修・交流・研究活動を運営する「白倉オープンスクール」を開校する。

事業実施主体：ロンドン AA スクール並びに十日町市

事業期間：平成 29 年 4 月 1 日から

(3) 白倉創生協議会の設立

事業概要：

白倉地区住民、里山プロジェクト、白倉国際交流委員会などの関係団体及び I ターン留学生、行政で組織する白倉地区創生協議会を組織する。

当該協議会は、キャンパス白倉の総合的な利活用と交流及び移住定住促進について意見交換を行い、地区住民と関係団体との合意形成を図ることを目的とする。

事業実施主体：白倉地区並びに十日町市

事業期間：平成 29 年 4 月 1 日から

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

移住定住人口については、十日町市が毎年度末に住民基本台帳及び白倉地区の区長からの聞取りにより評価を行う。

キャンパス白倉における利用者数については、十日町市が利用申込書を集計して評価を行う。

翌年度 5 月まで、白倉創生協議会を開催して、K P I に基づく事業効果の評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)
移住定住者数	0	0	0	0
キャンパス白倉の利用者数	415	35	40	45

	平成31年度 (4年目)	平成32年度 (5年目)	KPI増加分の 累計
移住定住者数	0	1	1
キャンパス白倉の利用者数	50	60	230

7-3 目標の達成状況に係る評価の手法

目標の達成状況については、検証後速やかにホームページにより毎年度公表する。また、交付金事業終了後の9月議会における産業建設常任委員会の場で、効果の検証を行う。